
キラーハウス

Z O M B R A Y

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キラーハウス

【Nコード】

N6735Y

【作者名】

ZOMBRA Y

【あらすじ】

2006年、春。ある日を境に満月の夜になるとどこかの家族が惨殺される。全米を震撼させるこの事件に警察は手を焼く。一方、飛び級で大学を卒業したレベツカは、以前連続殺人事件で逮捕された異常犯人者専用医療施設に収容されているジョンに興味を持つ。だが、満月の夜に電話が掛かる。その内容は祖父の死を伝えるものだった。警察の進展しない調査に苛立ちを覚えたレベツカは友人と共に祖父の住んでいたテキサス州の屋敷に向かう。だが、そこで待ち構えて居たのは、異形な存在だった

プロローグ

署に連絡が入ったのは、夜中のことだった。

市の死体保管所から殺人課宛の、緊迫した電話が入った。その内容には信じがたいものだ。

私はパトカーを猛スピードで飛ばし、保管所に直行した。今夜の事件は異常極まりないものだった。

被害者　　幼い少女の死体が回収された。刃物で喉を切られたそうだ。

私は中に飛び込んで検死室に駆け込んだ。

広い部屋のテーブルの上には、数々の解体道具が置かれている。

天井の光が照らしているもの。

解体の終わった子供の死体。

哀れなものだ。これから人生を切り開く少女が無残に殺され、無残に解体された。

遺族にはどういえばいいのか……

死体の脇に居た3人の学者が私を迎えた。青い手術着を着て、マスクをしている。

「遺族にはどう説明する？」

私は尋ねた。

3人が顔を見合わせ、1人の若い人物が答えた。

「実は、少女の家族は行方不明なんです」

私は耳を疑った。

「行方不明？」

「はい、少女の遺族は全員行方不明です。家も荒らされた形跡なしで」

何てことだ……正気の沙汰ではない。

「それと、少女の胃からテーブルコーダーが発見されました」

「何？」

1人がテープを流した。

『君ら警察が我々の前ではどれほど無力か思い知らせてやるう』
無愛想な老人の声が聞こえた。

私はテープを叩きつけたかった。

『君達の仕事は街の治安を守ることだろう？我々の仕事は街を破壊することだ。ここで1勝負しよう。ゲームをするんだ。』

言うておくが、我々は既に人間ではない。文字通りな』
望むところだ。相手が怪物なら容赦する必要ない。

我々は手を出してはいけない怪物から挑戦状を受けた。

貴様らの思い通りにはさせない。

怪物達め、今度こそ始末してやる。

私は拳銃を握り締め、車に戻った。

プロローグ（後書き）

どうも、作者です。今まで小説提供者だった僕が初めて小説を投稿します。

どうか暖かい目で朗読お願いします。

ユーザー登録なしでも感想を受け付けています。

3週間の1回は更新するペースで行きたいと思います。

どうか感想などをお願いします。

夢遊病（前書き）

【主要登場人物】

レベッカ・サンダース

18歳で優秀な成績を収め大学を卒業した才女。

ジェフ・セイント

22歳の男性。レベッカとは親友以上恋人未満の関係。

ジャック・スミス

連邦捜査局（FBI）特別捜査官。レベッカの才能を見込む。

ジョン・ドウ

異常殺人鬼。

ウィル・ラウンズ

優秀弁護士。

アマンダ

サイコパス
精神病質者。

バリー・マクレーン

ガンマニアの刑事。

フランシス・サンダース

レベッカの祖父。

ポール・オルコット

特別機動隊（SWAT）隊長。

サニー

レベッカの義理の妹。 8歳。

夢遊病

真夜中だった。

レベツカは眠気を吹き飛ばすために熱いコーヒーを喉に流し込む。そろそろかな？

レベツカは扉を開けた。

8歳の少女なら望むものがそろった子供部屋の入った。可愛いもの

義理の妹のサニーには望むものは何でも与えた。甘やかしすぎかもしれない。けれど、私はサニーの笑顔が素敵でたまらない。義理の妹として引き取ったときには生涯かけて育てようと決心したものだ。

部屋の中央にサニーが立っていた。

艶々と輝く彼女の金髪が、無造作に垂れ下がっている。ぱっと目を開く。彼女の青い目がレベツカを睨む。

「逃げなきゃ」

サニーは言った。

「逃げなきゃ」

レベツカは近寄る。

「安心して、何も居ないわよ」

サニーの肩を掴む。

「ブギーマンもフレディもジェイソンも居ないのよ」

サニーは怯えていた。

「違う……逃げなきゃ」

「誰も居ないの、この家は安全よ」

「逃げなきゃ」

「何から？」

「満月の夜は危ない」

「狼男は存在しないの、安心して」

サニーは首を振った。

「彼らから隠れなきゃ」

彼ら？誰のことかしら？

一瞬背後に気配を感じた。

振り返ったが、誰も居ない。

今の気配は？

サニーがぐたりと倒れる。

レベツカは慌てて抱き上げる。

ぐっすりと眠っていた。その寝顔は可愛らしかった。

レベツカはベッドに寝かせ、毛布を掛けてあげた。

「レベツカ、入院させるんだ」

ジェフはソファに疲れ果てて座るレベツカに優しく言った。

「君は一晩中、彼女サニーの世話を焼いている。そのせいでこの最近ろくに睡眠を取ってないじゃないか。仮眠すら取れていない」

レベツカはジェフに答えた。

「私は大丈夫。母親はもつと大変よ？」

彼女の声は愛想の良い好印象を与える。

「君はまだ若い。毎晩寝ていないと、体に悪影響が出るぞ」

「望むところよ」

ジェフは首を振った。

「君が参ってしまったてはサニーが悲しむ。いいか、サニーを入院させるんだ。君は休養を取る」

彼はレベツカの肩を掴んだ。

「いいか？思い切って入院させるんだ。じゃないと君は駄目になってしまう」

「私は大丈夫だから」

「それは強がりだ。彼女の夢遊病は僕達の手には負えない」

悪夢はある日から起きた。それまで普通の可愛らしいサニーがある日突然悪夢にうなされたように何かから逃げたがっている。

ジェフは言った。レム睡眠やノンレム睡眠などの専門用語を使っ

て説明し始めた。

彼女はきつと友人の家などで怖い映画を見たんだ。そうだな、『エルム街の悪夢』や『13日の金曜日』や『ハロウィン』辺りかな？それとも『リング』か『呪怨』かもしれない。さもなければ、酷いニュースを見たんだろ？丁度その日に一家虐殺事件のニュースが一日中放送されてたんだろ？彼女はストレスでなんちゃらこんちゃらつ……と言った。

専門病院にも連れて行つた。

医者 of 診断は最低だった。

原因はストレスですね。

もしかしたら心的外傷後ストレス障害の可能性は否定できません。暴行や酷い事故等はありませんですか？そういう経験は？

ないとレベツカは答える。

医者は他にも質問した。

今朝の食事は？

あなたとの関係は上手くいってますか？

虐待の可能性は？

学校でのいじめは？

教師からの嫌がらせは？

レベツカは怒りを覚えつつ堪えながら答えた。

ありません。

ありません。

ありません。

ありません。

ありません。

サニーに虐待？学校でいじめ？

サニーに虐待？学校でいじめ？教師からの嫌がらせ？

サニーに虐待はしていないし、学校では親友が多いし、教師から

はほめられている。

ストレスが原因？

一体何でストレスが溜まっているの？

医者は当てに出来ない。

他のマシな医者のも診断させ通わせたが、改善は無かった。

私もニュースを見せず、映画を見せずと言う規制で興奮を感じさせなかった。

事態は悪化する一方だ。

医者は役に立たない。

ジャフはパンフレットを見せた。

「大丈夫だよ。サニーが何かされると思ってる？拘束具は付けられないし、変なマスクは付けられない。リゾートだよ」

レベツカはため息ついた。

「彼女が精神病とは思えない」

「僕もだよ、けど現に夢遊病になってる」

それは否定できない。

「私……医者のは任せられない」

「医者に任せるんだ。悪ければ飛び降りるかもしれない」

「医者に任せていいの？」

「任せるしかない」

レベツカはサニーとの思い出を振り返った。

「任せていいの？」

「とにかく電話してみるよ。僕に任せて」

ジエフは優しい面倒見の良い男だし、話の分かる男だ。けど、今回の判断は冷酷に思えた。

これもサニーのため！

レベツカは自分に言い聞かせた。

その時、突然視界がぼやけた。

同時に意識が………

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6735y/>

キラークラス

2011年11月22日02時00分発行